

W116b **MAXI/SSC のデータを用いた天体カタログ**

内田大貴, 常深博, 今谷律子 (阪大), 富田洋, 中平聡志, 木村公 (JAXA), 杉崎睦 (理研), 諸岡義隆 (宮崎), MAXI チーム

国際宇宙ステーション (ISS) の日本実験棟「きぼう」に搭載している全天 X 線監視装置 (MAXI) の X 線 CCD カメラ (SSC) の観測データを用いた天体カタログの作成について報告する。これまで、MAXI/SSC を使ったカタログ (2012 秋 W36a. 花山) が報告されており、132 個の天体を検出している。今回のカタログ作成では SSC に特有の低エネルギー帯 (0.7-1.7keV) で、2010 年 9 月 16 日から 2014 年 11 月 31 日までの約 4 年 3 ヶ月分の観測データを利用した。観測開始当初、MAXI は太陽光の光漏れにより、観測が難しかったために、その期間のデータは除いた。今回は、バックグラウンド低減のための新しいデータスクリーニング手法を使用し、SourceExtractor というソース抽出ソフトを用いてバックグラウンドの推定、座標決定を行うことで、従来カタログよりも精度よく候補天体を抽出した。本公演では、新しいイベントデータの改善点、候補天体の抽出方法、対応天体の数、検出限界などについて発表する。